

令和6年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|--------------|-----|------|-----------|----------|
| 科目 | 言語文化 | 単位数 | 1単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 精選 言語文化（三省堂） | | 副教材等 | なし | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を的確に把握し効果的に表現する資質。能力を育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
|---------|---|

| 評価の観点 | | |
|---|--|--|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容（ねらい） | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|---|---|--|-------|---|---|---------------------------------------|----------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 5 6 7 | 古 古文入門「児のそら寝」 「絵仏師良秀」 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むのに必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ・内容や構成、展開を的確に読み取り、作品に表れているものの見方、考え方を捉える。 | ○ | | | 歴史的仮名遣いのきまりや、古典特有の表現、用言の活用について理解している。 | 定期考査 課題 小テスト 授業態度 |
| | | | | ○ | | 登場人物の心情の変化や行動の理由について読み取ることができる。 | |
| | | | | | ○ | 進んで歴史的仮名遣いを理解し、説話の面白さを読み取り、他者に説明できる。 | |
| 古 漢文入門「漢文の世界へ」 「漢文の基本構造と訓読」 古 故事「漁夫之利」 「借虎威」 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。 | ○ | | | 中国の古典が日本に輸入され、訓読の仕組みが生まれた歴史を理解している。 | | |
| | | | ○ | | 漢文の内容を読み取り、自分のものの見方や考え方を深めることができる。 | | |
| | | | | ○ | 故事成語が現代の日本語ではどのように使われるかを確認し、活用できる。 | | |
| 古 物語「芥川」 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌物語に描かれている内容を、和歌の解釈とともに叙述をもとにした的確に捉える。 | ○ | | | 『伊勢物語』について構成や内容、当時の恋愛や貴族の生活について理解している。 | | |
| | | | ○ | | 本文中の重要語句や助動詞、助詞、和歌の修辭に着目して、本文の内容を把握できる。 | | |
| | | | | ○ | 「男」の心情の変化や行動について、本文を根拠に話し合うことができる。 | | |
| 8 9 10 | 古 随筆 「つれづれなるままに」ほか | <ul style="list-style-type: none"> ・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 ・文語の活用について、理解を深める。 | ○ | | | 『徒然草』と作者について知識を深め、重要語句や助動詞を理解している。 | 定期考査 課題 小テスト 授業態度 |
| | | | | ○ | | 本文全体の内容と構成をつかみ、根拠を持って読解することができる。 | |
| | | | | | ○ | 随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に他者と話し合うことができる。 | |
| 現 詩歌「サーカス」 「I was born」 | <ul style="list-style-type: none"> ・「サーカス」を読み、筆者の表現の工夫を読み取るとともに、描かれている主題を読み取る。 ・「I was born」を読み、(かげろう)のイメージに託された生命への思いを深く味わう。 | ○ | | | 用いられている語句の意味や使われ方を理解している。 | | |
| | | | ○ | | 表現の工夫を読み取り、作者が描こうとしている主題を読み取ることができる。 | | |
| | | | | ○ | 詩の読解を通して自らのものの見方、考え方を深め、鑑賞文を書くことができる。 | | |
| 古 史伝「先從隗始」 「鶏鳴狗盗」 | <ul style="list-style-type: none"> ・話の展開や登場人物の言動を読み取り、史話のおもしろさを味わう。 | ○ | | | 出典と編者について理解し、舞台となった時代や地域について知識を獲得している。 | | |
| | | | ○ | | 郭隗の主張とその根拠について、正確に読み取ることができる。 | | |
| | | | | ○ | 「隗より始めよ」が現在どのような意味で用いられているかを理解し、活用できる。 | | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容（ねらい） | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|------------------|--------------------|---|-------|---|---|---|------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 1 1 1 2 | 古随想「雪のおもしろう降りたりし朝」 | ・随筆に表れている作者独自の物事の見方に触れ、もの見方、感じ方、考え方を深める。 | ○ | | | 敬語を正しく読み取るとともに、当時の人々の暮らしを示す表現について理解している。 作者独自のものの見方や当意即妙な対応について、本文をふまえて正確に理解できる。 古文を現代に生きる自分に引きつけて解釈しようとするができる。 | 定期考査課題 小テスト 授業態度 |
| | 現小説「羅生門」 | ・作品に描かれた人間の孤独な葛藤を読み取り、自らのもの見方、考え方を深める。 ・物語展開の把握を通して、文学表現の理解力を養う。 | ○ | | | 物語の展開や、登場人物とその相互関係について理解している。 下人の心情の変化について、物語の展開に即して読み取ることができる。 物語の設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えることができる。 | |
| 1 2 3 | 古日記・紀行「門出」「帰京」 | ・随筆に表れている作者独自の物事の見方に触れ、もの見方、感じ方、考え方を深める。 | ○ | | | 古典の世界に親むるために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 旧暦や古時刻、旧国名といった古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深めることができる。 | 定期考査課題 小テスト 授業態度 |